

一〇二二年一月八日

ヘアサロン百寿の母に年賀状

凡士

餅食べて戦後の日々を語り草

宏虎

焚初の菊炭窯に神酒注ぐ

凡士

初稽古片肌脱ぎに弓を射る

凡士

歳末やパズルの様な駐車場

よう子

かかし

初鶏の鳴くをうつつに二度寝かな

素秀

菰巻かれ老松天へ傾きぬ

愛正

うつぎ

投句日記す花丸暦果つ

かかし

モノクロの夢より醒めて雪明り

数独に耽けて跨ぎぬ去年今年

こすもす

ねんねこの母のうなじに涎あと

よう子

指示棒の気象予報士まず御慶

素秀

寄す波に堪ゆる礁の夕千鳥

素秀

花鍊研いでそれから年用意

むべ

かかし

かかし